

第3節 歴史的建造物・石造物等に関する計画

5-3-1 歴史的建造物・石造物等

(1) 現状の保存

歴史的建造物・石造物等については現状保存を原則とし、史跡内に現存する歴史的建造物の茅葺屋根の経年による劣化は、定期的かつ計画的に修復する。

なお、修復に当たっては、地域で受け継がれてきた茅葺きの技術をできる限り活かして茅葺屋根の伝統的な形状の維持に努める。

史跡の復旧や防災等を除き、人為的要因による改変は極力避け、調査等により新たな遺構が検出されたときは、最小限の改変に留める。

(2) 整備

現状の改変を伴う整備については、史跡に与える影響を明確にしたうえで現状変更を検討する。

また、石積み等の石造物については、経年劣化や獣害による棄損を避けるため、必要に応じて覆土等の保存措置を検討する。

(3) 防災・復旧

防災に関して、歴史的建造物には自動火災報知機及び消火器が設置されているが、避雷施設や防火帯の備えがないため設置を検討するとともに、災害等、自然要因による変化に対処する復旧措置については、その都度、個別に対応する。

(4) 発掘調査

整備事業が土地の掘削を伴う場合等は、発掘調査を実施し、整備に際しては工法も含め専門家からの指導のもとで進める。

5-3-2 各地区の現状

【檜下宿】

檜下宿は、新旧の建造物が混在している（図131）。

「山形県茅葺屋根建造物継承事業調査報告書（平成27年度）」によると、県内には文化財に指定された茅葺屋根の歴史的建造物が53棟あり、うち9棟（16.98%）を所有する本市は、県内自治体の中で最多の所有数となっている。檜下宿には茅葺屋根の歴史的建造物が4棟現存しており、檜下宿の歴史的建造物として滝沢屋（指定地外）、旧武田家、橋本屋、庄内屋、大黒屋（指定地外）



図 130 茅葺屋根は定期的な修復が必要



図 131 新旧の建造物が混在する檜下宿



図 132 檜下宿での茅葺屋根修復

山田屋が挙げられる。

市が所有する歴史的建造物の茅葺屋根については、年次計画に基づいて修復を進めるとともに、個人が所有する茅葺屋根の歴史的建造物については、適正な保存を図るため、維持管理にかかる指導や支援を実施する。

地域で受け継がれてきた茅葺文化を正しく保存するためには、茅（屋根材）・茅葺き道具・茅葺き技術の確保が不可欠である。

屋根材となる山茅のススキ（図133）については、地域の耕作放棄地を茅場に再生させた住民主導の「かみのやま草屋根プロジェクト（平成28年度～）」活動の支援を通して、茅葺屋根の修繕で使用する茅を地元で着実に確保する仕組みを構築する。

茅葺きで使用する道具については、その多くが職人による手作りであることから、不要となった屋根鈎等の所有者等に茅葺文化保存のために提供を広く呼びかけ、地元の鍛冶職人と連携を図りながら適正な保存を図る。

地域で受け継がれてきた茅葺きの技術については、茅葺き修繕の様子を記録するとともに、茅葺き職人への聞き取り調査等を通して、茅葺きの技術及び工法等の記録保存に努める。



図 133 耕作放棄地を茅場に再生。再生茅場の面積は約 2,000 m²



図 134 茅葺修繕に向けた茅の下拵え

かみのやま草屋根プロジェクト (H28～/5年目)

～茅葺き文化を適正に保存し正しく後世に伝えるための取り組み～

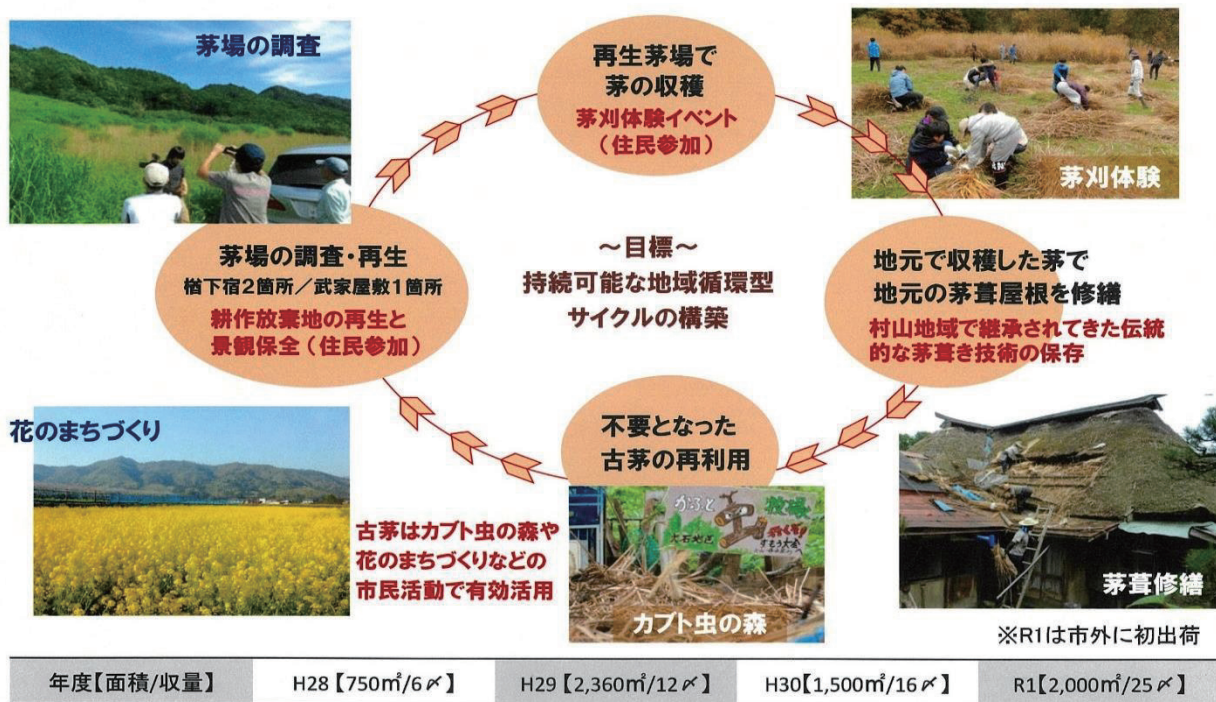


図 135 平成 28 年度に始動した「かみのやま草屋根プロジェクト」。地元に残る貴重な茅葺文化を地域で保存伝承するため、耕作放棄地を茅場に再生

檜下宿の横町に位置する歴史的建造物「山田屋」は、地域の住民が集う交流サロン「お茶のみまじゃらっしやい」や、夏休みの週末限定で開催されている「宿場の縁側カフェ」など、地域住民による積極的な活用が図られている。

この「山田屋（図136）」のサッシに関しては、これまでの調査記録等に基づいて、宿場の歴史的建造物に相応しい意匠の建具で復元を図るとともに、瓦風トタン屋根については降雪の重さによる破損が目立つため、今後、雨漏りが懸念されることから降雪及び融雪の対策を検討する。

檜下宿の石造物として、山田屋の高石垣、金山川に架かる新橋及び硯橋、土留めの石積みや石畳等が挙げられる。

金山川に架かる2つのアーチ状の石橋（新橋・硯橋）は、「上山市橋梁長寿命化修繕計画（建設課）」で「構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい」と診断されている。

この石橋は、高欄が地上40～80cmと低く、経年による石の劣化が複数個所で確認されている。

石橋が架かる市道檜下宿線は、地域住民の生活道路であるとともに史跡探訪者の多くが散策時に利用していることから、地域や関係機関と合意形成を図りながら安全対策を協議する（図138～図140）。

石橋のアーチ部分には、冬になるとたくさんの氷柱がぶら下がるが、この氷柱群は、石橋の劣化に少なからず影響を与えるため、今後は氷柱対策の措置を講じなければならない。

硯橋（石橋）は、アーチ部切石が接する河床が岩盤ではなく砂礫層であり、水衝部が洗掘されて奥行き約80cmに渡って空洞化しているほか（図144）、アーチ部切石と橋台切石との間に約25cmのズレが生じている。（図143）

硯橋上流にある新橋は、水衝部の河床洗掘対策が実施されている（図146／図147）。硯橋の水衝部の土台石がこれ以上動かないようにするため、水衝部の河床洗掘を防ぐ対策について所管課及び関係機関と協議する。

また、石橋を構成する複数の切石に確認されている複数のクラック（図145）については、クラックゲージを用いて変位観測を実施する。



図 136 檜下宿「山田屋」

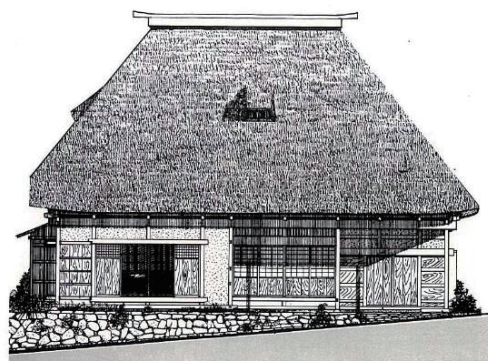


図 137 檜下宿「山田屋」（昭和 47 年調査の「宿場町檜下の集落形態」から）



図 138 金山川に架かる石橋「新橋」



図 139 安全対策が必要な石橋の高欄



図 140 視橋（下流から撮影）



図 141 新橋アーチ部の氷柱

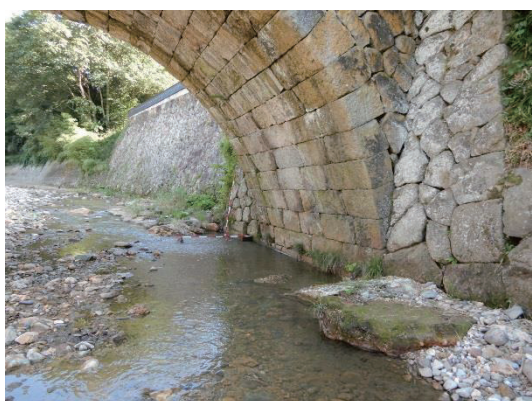


図 142 視橋水衝部（下流から撮影）



図 143 アーチ部と橋台とのズレ



図 144 水衝部で洗掘され切石の下が
80cm 空洞化

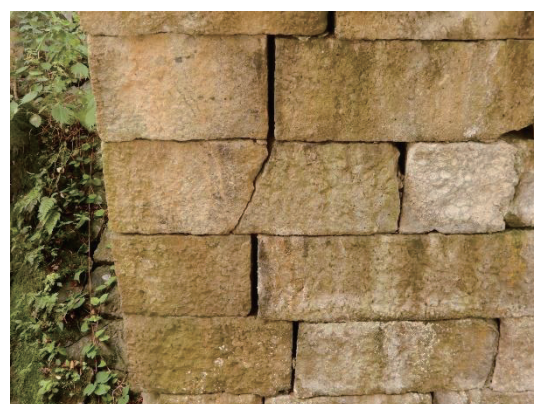


図 145 石橋に確認できた複数のクラック



図 146 水衝部の河床洗掘対策済の新橋



図 147 新橋の水衝部の河床洗掘対策

平成30（2018）年9月4日に本市に接近した台風21号の影響で、史跡「橋本屋」西側の石垣天端に列植されたスギ8本のうち3本が東側に倒伏し、隣家との境界にある石垣が幅約6.0m、高さ約4.0mに渡って崩落した（図148）。

発災直後、強風で倒れなかった石垣天端のスギ5本を確認したところ、根が宙に浮くなどして不安定な状態で倒伏の危険性が確認されたことから、二次被害を防ぐため、根が宙に浮いたスギ1本は根元から伐採・撤去し、残りの4本のスギは約10mの樹高を約2mに切り詰めた（図149）。

崩落した石垣の復旧に当たっては、有識者からなる史跡災害復旧検討委員会を組織し、崩落現場の現況確認調査等に基づいて復旧の方針や工法を繰り返し検討した。

災害復旧工事では、崩落前に撮影された写真の提供を広く呼びかけ、その写真記録に基づいて積み戻しを行った。なお、石垣の天端については芝を張って雨水対策を講じている。



図 148 接近した台風の影響で倒伏したスギと崩落した石垣



図 149 二次被害を防ぐため石垣天端のスギを伐採・撤去



図 150 史跡「橋本屋」西側の石垣崩落状況（阿子島功委員による写真合成）



図 151 東北芸術工科大学が檜下宿で実施した文化財分布調査（H29／2017）の際に撮影された橋本屋石垣。この写真を手掛かりに崩落石垣の復旧



図 152 崩落前の石垣写真と転石を照合



図 153 倒伏スギ、崩落石垣等を撤去



図 154 災害復旧検討委員会による現査



図 155 崩落した石の積戻し



図 156 写真照合した石は付番で積戻し



図 157 上段積み戻しはクレーンを使用



図 158 竣工。H30（2018）年 12 月 6 日



図 159 史跡「橋本屋」石垣竣工（阿子島功委員による写真合成）

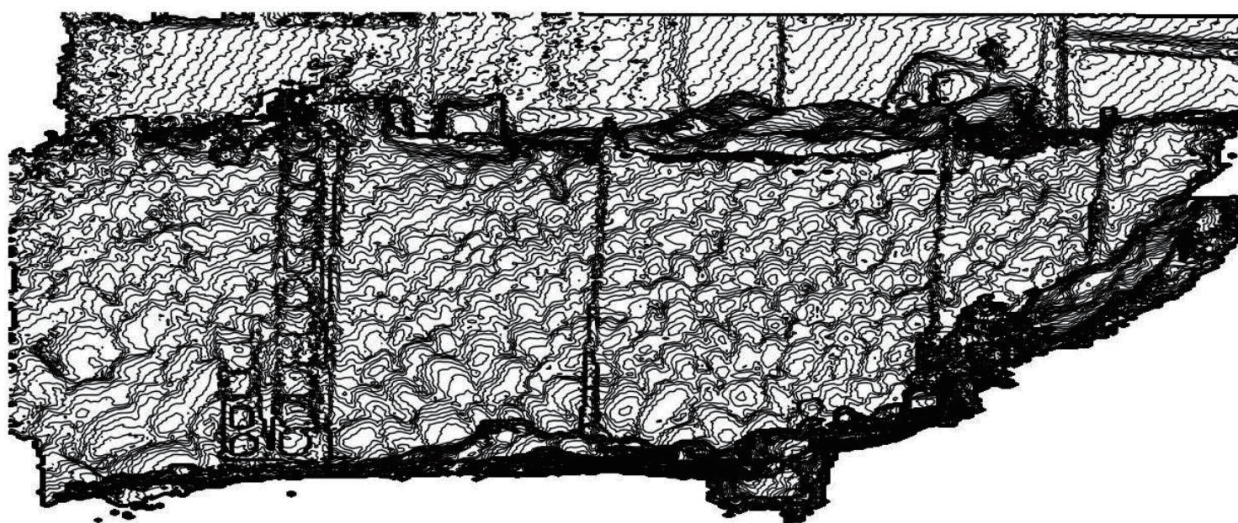


図 160 史跡「橋本屋」復旧石垣 2 cm 等高線図／正面（阿子島功委員作成）

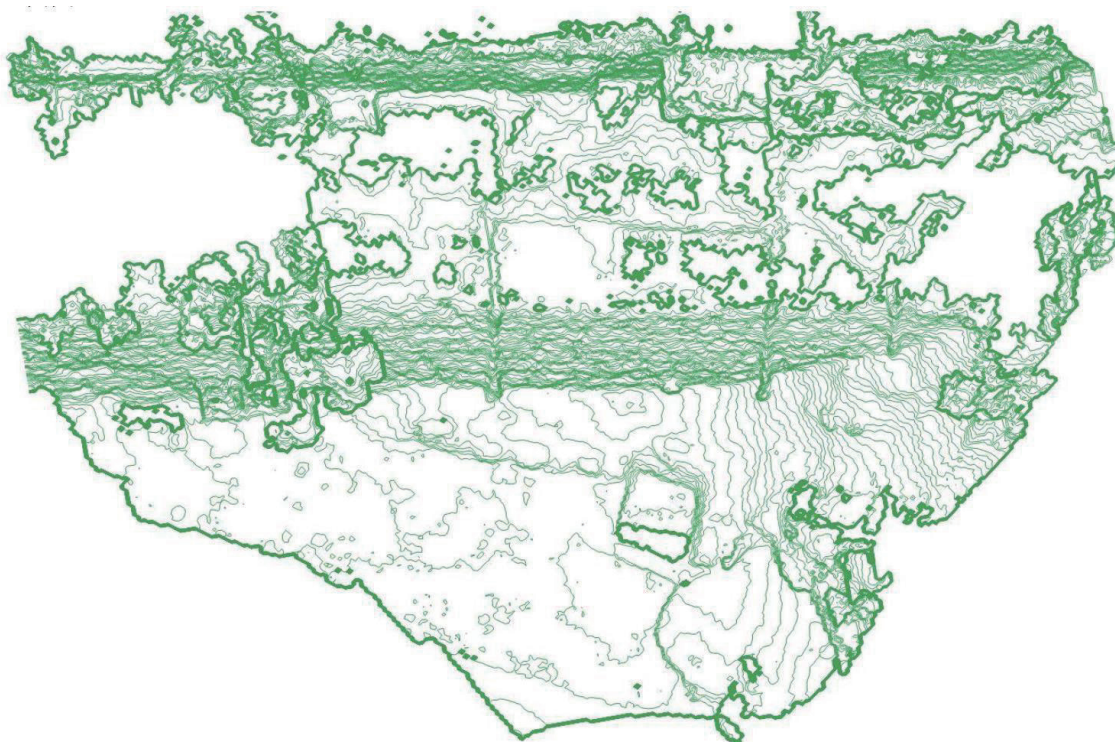


図161 史跡「橋本屋」復旧石垣2cm等高線図／平面（阿子島功委員作成）

【金山越】

金山越には、街道法面の野面石積みや街道縁石、馬頭塔など街道関連遺構が多く残存している。

金山越の街道は、道幅2間（約3.6m）と言われ、金山宿頭付近の街道両側に石積みが残存する場所では、約2間の街道幅を確認することができる（図163）。

街道沿いの石積みで^{はら}孕みや崩落が確認されている箇所については、今後の調査に基づいて適正に積み戻すとともに、石積み^{はら}に悪影響を与えている樹木については伐採する（図164）。

なお、近年、イノシシによる路面の掘り返し（図166）や、沿道石積みや街道縁石列の損壊（図165）が多数生じていることから、獣害を所管する関係課及び関係機関と連携を図り情報を共有しながら対応策を協議する。



図 162 金山宿頭付近の街道（昭和 47 年調査の「宿場町櫓下の集落形態」から）

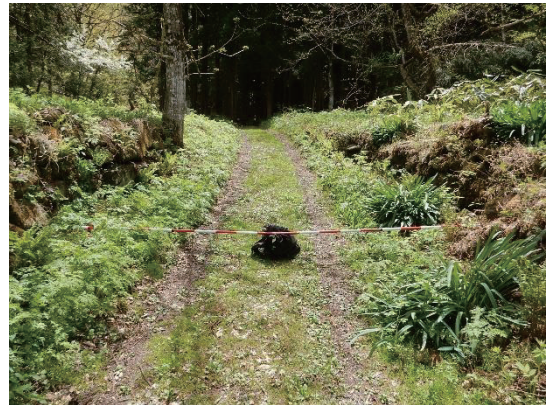


図 163 街道両側に石積みが残存し、街道幅2間を確認できる金山宿頭付近



図 164 ^{はら}孕んだ石積み（金山宿頭付近）。近隣の樹木の根による影響と推定される



図 165 崩落した石積み（馬頭塔付近）



図 166 イノシシによる街道路面の掘り起こし。被害面積は年々拡大傾向



図 167 石に残る楔跡（金山宿頭付近）